

2AAJUYE2EMSMNYWAAE2EK0BANAM5UKYA

異世界 家出少女 泊めてみた。

~ダークエルフとお泊りSEX~

2AAJUYE2EMSMNYWAAE2EK0BANAM5UKYA

※お試し版の解像度は1024×640です
本編は1600×1000になっております

基本CG19枚テキストあり96枚/テキストなし72枚・日焼け差分あり

それはいつもと変わらないある日の仕事帰りだった。

いつものように疲れた体を電車に押し込み、いつものようにコンビニ弁当を買う。

違ったのはいつもは通り過ぎる公園を
「今日は通り抜けて帰ろう」と
と気まぐれに思ったことだった。

そこに、彼女はいた。

「おい、その兄ちゃん」

「え、僕……」

「そうそう、ちょっといらいか……」

(何だこの娘……日本人じゃ……なら、よな……)



「まあまあそういう反応になるよな……
しばらく来ないうちに警戒心高くなつたな……」

「えっと……何か用かな？こんな時間にこんなところで何を……」

「お兄ちゃん溜まってない？
ちんちんスッキリしてかない？安くしとくよ……」

全身から血の気が引いていきつつ
下半身の一部分に血が集まるとい
う稀有な体験をした。

目の前の恐らく少女は
恐らく自身の身体の価値を
恐らく売買しようとしている。

その事を瞬時に理解した頭脳はそれを拒否しようとしたが、
下半身はそれを大いに承諾したためであった。



「どうする……?」

『……』

「まあまあ座んなよ」

「は、はあ…」

「耳が長いと…なんだよ…」

「耳気になる?？」

「あ、と…」

「まあ信じてもらえなくてもいいけど、私別の世界から来たエルフなんだよ。ダークエルフって知ってる?」

「そっく、なんだ…」

「アレっ、信じるんだ…意外」

「ほんとまあ…普通の人には見えなから…」

「そっかそっかーじゃあ話し早いわー」





私もこの世界で
ちよっとやらかしちゃってさ

それでこっちに逃げてきたんだけど

ここには前に来たことあったし

でも急いでたせいか
手ぶらで来ちゃってさ……

それで帰るまでの間……
まあゲート開く
魔法使えるように
魔力貯めるのに
2〜3日くらいかな……



こっちですごくお金が必要なんだよね〜



そんでちよっと
助けてもらいたいわけ……どう？

「あー困るなあ…とろろなな…なまはらら…ふんふん…」

「にっひっひっ…スケペなにーちゃんで良かった！
私も気持ちいいの好きだから楽しんでやおうよー」

「ふふふ…おきやろ…」

「あ、名前はエリル！

歳は110!

人間からしたらちょっと年増かもだけどよろしくっ！」

「110…やっぱりエルフって長命なんだ…」



「この辺にホテルとかあったかな…
そもそも見た目は完全に○学生みたいだし連れ歩いたら…」

「早速そこでしょうっ！」

「Yes of course yes」

「じゃ、とりあえずクチでしたげるからちんちん出して〜」

「ほ、ほんとにささ〜」

「そんなギンギンにして言うセリフかよ〜
さっさと出せって!」

「...じゃ、じゃあ...」



「うおっ！でっか」♡

ズレ！
ズレ！
ズレ！

「ちっばろん○ろんでゃんか〜期待しやがっし〜」



「うわ〜ガッチガチ…硬…」

すり♡
すり♡

「うっ、うっ…手がすべすべで…」

「手だけでそんな反応いいとヤリがあるな〜」



「勃たせてからにしようと思ったけどもう充分だなく！」

(ちばら…期待しすぎてすぐ射精しちゃうかも…)

「んおっ…唇柔らかっ…!」

ちゅっ♡

「…っ」



「んちゅ…んぶ…」

「はあ…はあ…口の中熱いっ…！」

しゅわ…

ちゅる…

「でかくてあおつかれるわおれ…」

「うあ…喋られると舌が当たる…！」



「……お、お……きゅっ……きゅっ……」

「……お、お……きゅっ……きゅっ……」

きゅっ

ちゅっ

「う、おお……す、吸い付いてくるっ……!?!」

「んっほ……んっほっ……んっほ……」



ズッ
ズッ
ズッ

「………」

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ

ズッ

「………」

「ふおお…まっ、まだ射精るっ…!」

「おわっ、めっちゃ出るじゃん
どんだけ溜めこんでたの兄ちゃん」

どろろお…

びゅんっ…

「…めんど…」

「別にいいよ〜 精液嫌いじゃなら〜」

「まだガツチガチだなあ〜」

「お恥ずかしい…」

「…挿れる?」

「おふす…おっ、お願いします」



「うおおっ…は、挿入してるっ…!こんな小さいまんこだっOver!」

「んっ♡そんな遠慮しないでもっと奥まで挿れなよっ♡」

おん…♡

しゅ

「ほ、ほんとにっ…!?!いいのっ!?!」

「大丈夫だいじょーぶ、奥までおいでっ♡」



「ふんっ……！」

「んっっっ……お♡♡♡」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「すげえ……根元までずっほりだ……！」

（このチンポ……思ってた以上にヤバいかも……♡）

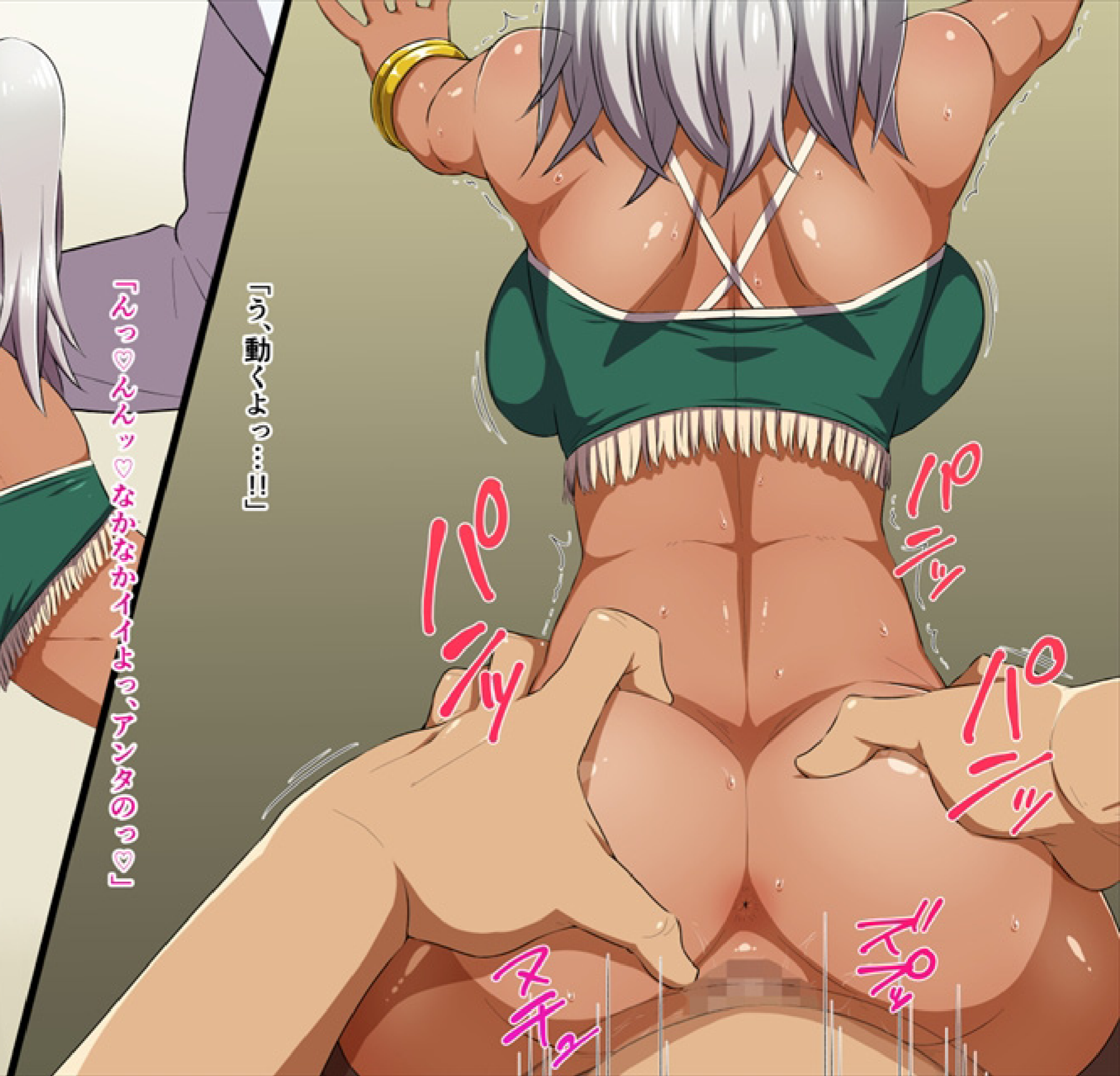


「あぁっ♡ぞっ♡♡奥っ♡♡いらっ♡♡んっ♡♡はぁっ♡♡」

「うっっ♡すっっ♡らっっ♡…！腰奥が絡み付いてくるっ…！！」

「んっ♡んんっ♡なかなかイイよっ、アంతのっ♡」

「うっ、動くよっ…！！」



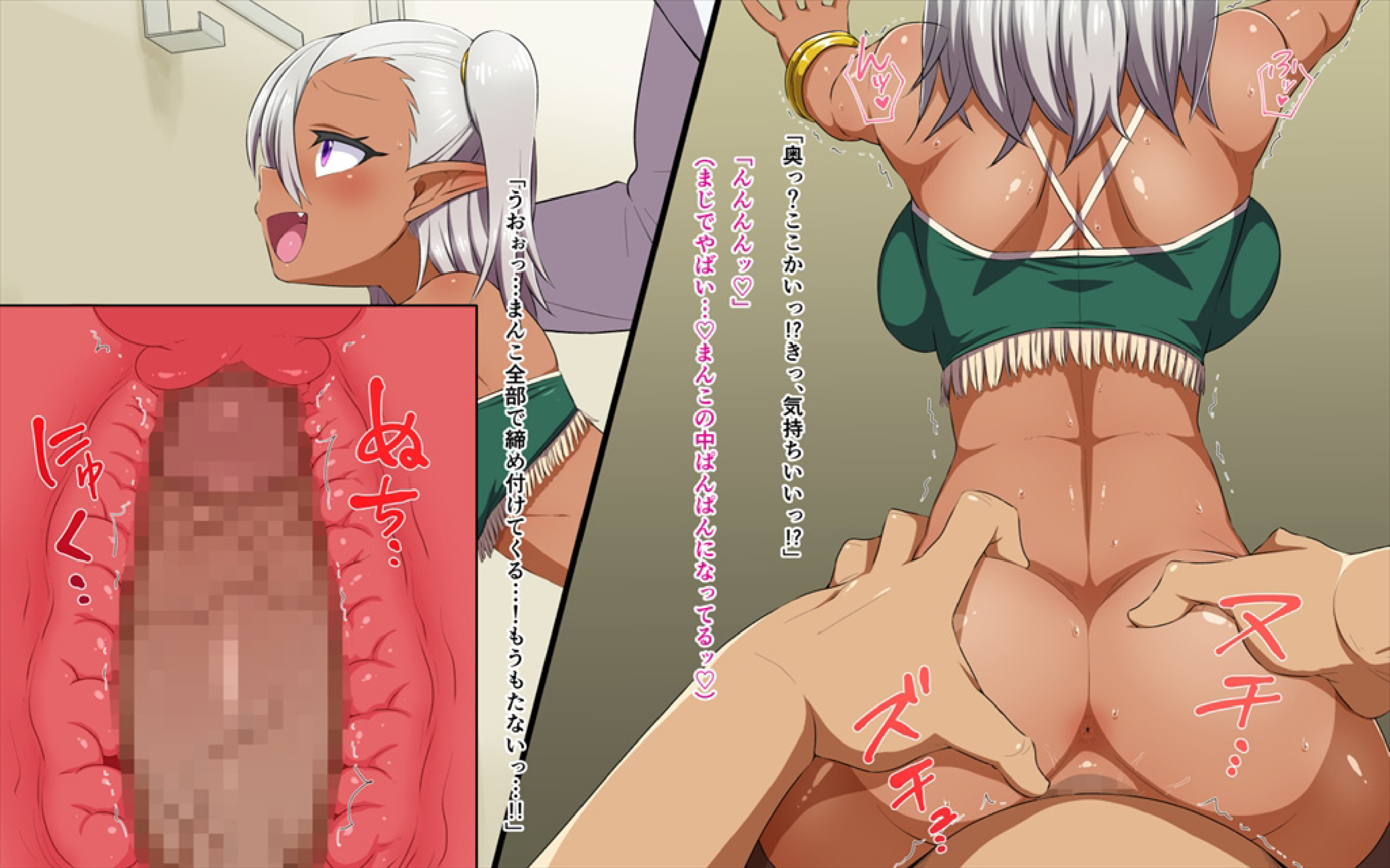
10/14

10/14

10/14

アキアキ

アキアキ



「奥の...」からっ!?きっ、気持ちさらさらっ!」

「んんんんッ♡」

(まじでやばい...♡まんこの中はんぱんになってる♡♡)

「うおおっ...まんこ全部で締め付けてくる...!もうもたないっ...!!!」

又チ...

ズチ...

ぬち...

ニゅ...



「ぶあつ、あああつ♡んあつ…♡はる…♡」

「!!! 射精さるさるさるさるさる!!!」



ゴッ

ムム

クッ

クッ

「いや、兄ちゃんの子ンポなかなか良かったよ〜！
もうちょよつとでイケたんだけどな〜！」

「ア〜んね〜勝手に射精しちゃっ〜！」

「いいよいよ別に〜！
…でどうしようかな〜…
宿代と食事代くらいは稼ぎたいから〜！」

「………」

「どんぐらい貰っとかか…
そうだな〜あと二人か三人くらいとっ捕まえるとして…！」



「あ〜んね〜！」

「ん〜？」

「よ、よかったらウチに泊まるかい？
僕一人暮らしだし、元の世界に戻るまで2〜3日くらいだったから〜！」

「思わずそんな言葉が回から出ていた…。
宿無し生活に同情したのか、
単なる性欲なのか、
彼女を独り占めしたい独占欲からなのか…。」

こうして異世界から家出してきた
ダークエルフのエリルを我が家に泊めることになった…

「ここが兄ちゃんの家か〜！
思ったより綺麗だったけど確かに狭いな〜!!」

「ワンルームなので…」



「そういや風呂もあるんだよな？入っていいか？
さっきぶっかけられたからベトベトでさ〜」

「あつ…!ごめん、もちろん使ってるよ」

「なんなら一緒に入る〜?」

「えっ…!」

「さっきも射精したのにやる気マンマンじゃ〜ん」

「エリルちゃんとなら何発でもイけそうだよ…」

「うへへ、変態だな〜お前」

「否定できなから…」



「んっ、あっ♡さっ、さっきした時より硬くなってるじゃん♡」

「さっきは…ちょっと緊張してたからかなっ…!」

「あぁっ、カリが膣内進んでくるの分かるっ…♡」

「ちっ、まんこの中熱いっ…!」

又チゅ

アッ



「んっは…♡おくまでとどいてるっ…♡」

「すっ…奥が吸い付きながらっ…し、締め付けてくるっ…!」

「んあっ♡あぁいっ♡
お前のチンポいいよっ♡
びったりハマるうっ♡」

「うぐっ、うあぁっ、
ほんとに搾り取られるみたい、だっ…!」

ぬちっ…

くちゅっ…

スッ
ッ

グッ
ッ

アッ
ッ



「んんっ!!でっ射精るっ!!」

「んおおっ♡♡んあっ♡♡あああっ♡♡」

「んんん」

「んんん」

「んんん」

「んんん」

「んんん」

「んんん」

「んんん」

「はあ…はあ…ごめん、な、膣内に射精しちゃった…」

「んっ、ああ、はあ…♡いーよ♡どんどん射精しな♡」



風呂上りに服も着ずにそのまま布団へとなだれ込む

「結構射精したけどまだイケんの？」

「だ、だめかな…」

「私も気持ちいいから全然いいけどなく
それにカラダで宿代払うって言ったし…来なよ♡」

「そ、それでは…」



お試し版はここまで!

つづきは
製品版で
おたのしみ
ください。



つづき!!